TRAFFIC ADVICE

[（株）シイ・エム・エス　安全運転講習会]

★交通教育センターから

自分が運転している姿を見ながら より良い運転行動を考える

鈴鹿サーキット交通教育センターが昨年新たに導入した教育プログラムの1つに「多発事故対応プログラム」がある。これは小型の車載カメラでクルマの前方の状況と、運転者の姿を録画し、その映像と速度やアクセル、ブレーキなどの運転操作の状態を示す情報を見ながら、自分の運転を振り返るというプログラムである。

3月31日と4月1日の両日に開催された（株）シイ・エム・エス（本社：愛知県名古屋市）の安全運転講習会の中で、多発事故対応プログラムが取り入れられた。参加したのは同社の新入社員4名。同社は病院など医療施設で使われる電子カルテのシステムの企画開発から導入、保守までを手がけている。「社員は営業やシステムのメンテナンスなどのために取引先である医療施設をクルマで訪問しています。業務の中で運転の占める割合が高いので、当社にとって安全運転はたいへん重要だと考えています」と安全運転講習会の事務局を担当する本社営業部の伊藤諭さんは話す。多発事故対応プログラムの導入について、「事故を起こした人が主な対象だと聞いていますが、自分の運転を客観的に見ることができる点は、社会人としての運転を身につけてほしい新入社員に最適だと私たちは考えました」という。

多発事故対応プログラムは、2日目の午後2時から4時にかけて行われた。一人ずつ順番に、運転の状況を記録するためのトレーニング車両に乗り、指定されたコースを走行。コースには、信号機のある交差点での右折、信号機のない交差点での右左折、障害物（駐車車両）の通過などが設定されている。そして記録が終わると、教室で各自の運転を振り返る。

インストラクターが「みなさんに走っていただいたコースの途中には、一時停止標識のある交差点がありました。ここで、みなさんは、停止線の手前で一時停止できていたでしょうか」と話し、スクリーンに一人ひとりの記録した映像を映し出す。その結果、全員が完全にクルマを停止させていない（速度表示が0km／hになっていない）ことがわかった。

「『止まれ』の標識は、停止線の手前で止まって安全を確認するという意味です。動きながら確認すると、相手がピラー（窓枠）などの死角に入っていた時に見落とすことがあります。必ず止まって、顔を動かして左右をよく見てください」とインストラクター。この他、右左折の際に適切なタイミングでウインカーを点灯させ、左右や後方の安全を確認しているかどうかを検証し、プログラムは終了した。

受講した松田篤史さんは、「映像を見て、自分は止まったつもりでも、実際には止まっていないことが納得できました。こうした基本的なミスが事故につながると思いますので、気をつけて運転したい」と感想を語った。

小型の車載カメラで撮影した映像を教室で振り返る。中央に車両前方の風景、その下に走行中のドライバーの様子と速度、ブレーキ、アクセル、ウインカーの操作状況などが表示される

コースには一時停止標識のある交差点が2ヵ所設定されていた

右左折の際にウインカーを点灯させるタイミングや、安全確認の状況も映像で振り返った

NEWS REVIEW

平成19年度 国際交通安全学会研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式

挨拶をする小口泰平・（財）国際交通安全学会会長

4月18日、経団連会館（東京都千代田区）で、「平成19年度 国際交通安全学会研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式」が開催された。

研究調査報告会は、平成19年度に成果が明らかになった研究プロジェクトの中から、「中心・周辺視野の脳部位の同定と交通安全の適用に関する研究」「新時代の道路の計画と設計手法に関する研究～性能照査型道路設計のための交通容量・サービス水準に関する研究～」「視覚障害者誘導用ブロック（点字ブロック）の設置ガイドラインの作成」「歩行者の道路横断実態を重視した実用的な最適信号制御の研究」の4テーマが発表された。

また、29回目となる国際交通安全学会の受賞者は以下の通り。

＜業績部門＞

「斜面市街地の再生に向けた多面的な交通対策への取組み」（長崎市）

「主体間連携を土台とした多世代にわたる交通安全教育活動」（香川県交通安全教育推進会議）

＜論文部門＞

「MOTORIZATION IN ASIA～14 Countries and Three Metropolitan Areas～」（METIN SENBIL・広島大学大学院、張峻屹・広島大学大学院 准教授、藤原章正・広島大学大学院 教授）

TOPICS

●埼玉県「平成20年春の全国交通安全運動スペシャル～セーフティマインド2008 心から心への交通安全～」

春の交通安全運動にASIMOが協力

4月5日、春の全国交通安全運動（6日～15日）に先駆け、埼玉県のJR大宮駅西口イベントスペースにて「平成20年春の全国交通安全運動スペシャル～セーフティマインド2008心から心への交通安全～」が開催された（主催：セーフティマインド2008実行委員会）。

JR大宮駅で開催された「平成20年春の全国交通安全運動スペシャル～セーフティマインド2008心から心への交通安全～」

本田技研工業（株）は、このイベントに協力。埼玉県警察本部交通企画課交通教育指導係（ふれあい班）と2足歩行人間型ロボットASIMO※による安全教室が行われた。会場に集まった多くのお客様が注目する中、ASIMOが「右よし」、「左よし」、「右よし」、「手を挙げて渡ります」と安全確認をしながら道路の渡り方を実演。さらに、道路を通行するときの4つの約束「止まる」「見る」「待つ」「確かめる」を確認した。他にも、自転車ヘルメットの着用やクルマの車間距離を「01、02」と二秒以上保つよう、お客さんに呼びかけた。

また、このイベントには、歌手の松浦亜弥さんが1日交通部長として出演。全ての席でのシートベルトの着用を訴えた。そして、「悲惨な交通事故から大切な命を守るため、交通ルールやマナーを守り、交通事故に遭わない、交通事故を起こさない」ことを宣言した。

他にも、歌手のさくまひできさん、熊谷ひろみさんや浦和実業高等学校チアリーダー部が出演し、埼玉県の交通安全運動の重点目標である「子どもと高齢者の交通事故防止」、「全ての座席でのシートベルト」、「二輪車対策と安全な車間距離」を中心に交通事故防止を呼びかけた。

ASIMOが埼玉県警ふれあい班と自転車ヘルメットの着用を呼びかけた

※ASIMO＝ホンダが開発した2足歩行人間型ロボット。ASIMOとは、Advanced（新しい時代）Step（ステップ）in Innovative（革新）Mobility（モビリティ）―新しい時代へ進化した革新的モビリティを意味する。

●茅ヶ崎市「第2回 春休み親子で一緒に自転車のルールを知ろう！」

ホンダ自転車シミュレーターで、自転車のルールを身につける

参加者はHonda自転車シミュレーターを体験

3月27日、神奈川県茅ヶ崎市役所分庁舎にて「第2回 春休み親子で一緒に自転車のルールを知ろう！」が開催された（主催：ちがさき自転車プラン・アクション22、茅ヶ崎市、協力：ちがさき自転車プラン推進連絡協議会、茅ヶ崎警察署、宮田工業（株）、本田技研工業（株））。当日は、親子15組38名が参加した。

茅ヶ崎市は、人と自転車が地域をつなぎ、ゆとりある生活を楽しむ「人と環境にやさしい自転車のまち茅ヶ崎」をめざして、市民・行政・事業者のパートナーシップを前提に『ちがさき自転車プラン』を推進し、様々な活動に取り組んでいる。このイベントは、小学生の子どもとその保護者に、楽しみながら自転車の「ルール・マナー」を学習していただく機会として開催。ルールやマナーの基本学習や○×クイズの他、ホンダ自転車シミュレーター※体験が行われた。

4月から小学校4年生の小池生弥ちゃんはシミュレーターを体験して「普段は道路の右側を自転車で通ることもあったけれど、左側を走らなければいけないと知りました。これからは、安全に気をつけて自転車に乗りたいと思います」と感想を語った。

また、茅ヶ崎市では3月28日～4月10日まで、総合体育館ロビーにてシミュレーター体験イベントを実施。202名の市民が体験した。

※ホンダ自転車シミュレーター＝自転車利用者のマナーや危険予測能力を高めることを目的に、ホンダが開発中の体験型教育機器。現在、効果的な教育方法などを研究中。

●フィリピン「ホンダ・セーフティ・ドライビング・センター開所式」

フィリピンに交通教育センターオープン

4月9日、フィリピンのパラニャケ市（マニラ首都圏南部）にて、ホンダの交通教育センターであるホンダ・セーフティ・ドライビング・センター（HSDC）開所式が行われた。

開所式では、HSDCの池添和彦社長が、「モビリティと共に安全もお届けするという考えの下、交通教育センターを設立しました。交通マナー、安全運転技術、適切な車両整備についてお客様に伝えていくことも私たちの務めです」と語った。

HSDCは、二輪車・四輪車の混合コースを備えており、受講者は安全運転技術の習得だけでなく、安全運転に対する意識・行動の改善を重視した教育を受けることができる。

フィリピンのホンダ・セーフティ・ドライビング・センター（HSDC）